

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4070000890		
法人名	特定非営利活動法人 いやしのさと		
事業所名	グループホーム いやしのさと		
所在地	福岡県京都郡みやこ町国分1396番地 (電話) 0930-33-2000		
自己評価作成日	平成 23 年 4 月 28 日	評価結果確定日	平成 23 年 7 月 8 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

八景山のふもとの自然豊かな場所にあり、散歩をしたり、景色を楽しむ時間を積極的に取り入れている。
職員間で苦手なことをお互いに補い合いながら、助け合いの精神で援助している。家族的な明るい雰囲気の中で、入居者、職員とも入れ替わりが少なく、なじみの関係を築いている。
また、家族との関わりを重視し、家族と協力し合い、援助ができていると思う。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.fsw.or.jp/kohyo/top.html
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成 23 年 5 月 18 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

利用者・家族・職員・管理者・代表者が一つの家族として生活しているような雰囲気の事業所を目指している。ボランティアの活動も活発で、定期的に草刈り、花や野菜の手入れ等が行われている。事務長がほとんど毎日事業所に宿泊しており、夜間も職員一人ではない。医療機関との連絡も密に行い、看取りまで介護を行える体制を整えている。食材も敷地内で収穫した物や近所のおすそ分け等を用い、郷土色豊かなメニューが多い。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	援助を行う時、理念を共有し、実践につながるよう努力している。 月に一度の勉強会で、理念に基づいて支援ができていないか確認している。	利用者一人ひとりの考え方や価値観等を尊重し、利用者やその家族が自分らしく暮らしていける環境づくりを支援していくことを理念の一つとして、朝礼等で理念を共有し、実践に向けて取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に挨拶したり、声を掛け合うようにしている。 催し物など、地域の方への参加を呼びかけたり、町内会や老人会などに参加し、当施設を知ってもらうよう努力している。	自治会に加入し、事業所の行事に地域の方を招待したり、地域の行事に積極的に参加する等、地域の一員としての存在感を築いている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月発行している「ほのぼの」の中に、今まで認知症の方に関わった事例報告を行っている。また、ケア会議時等においてアドバイスを行っている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、利用者やホームの報告を行い、出席者の助言・意見があれば話し合いを行い、サービスの質の向上に努めている。 他の施設の例などを聞き、取り入れられる部分は積極的に取り入れている。	利用者の家族、行政職員、地域の代表者を委員として運営推進会議を開催している。認知症サポーター研修の開催等、提案された意見を迅速に取り入れている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホーム連絡協議会やケア事業者会議等に参加し、町の担当者を交えて話し合いを行ったり、勉強会を行ったりしている。色々なことを話し合える場があり、助かっている。	町が主催する連絡会等を通して、定期的に意見交換を行っている。また、町の担当窓口に月一回発行している事業所だよりを持参して情報交換を積極的に行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	できる限り身体拘束を行わないで援助するよう心がけている。 利用者が自分自身や他の利用者に危害を及ぼさない限り、身体拘束を行わないように勉強会等で啓発に努めている。	身体拘束に関する外部研修に参加したり、内部研修を積極的に行ったり、拘束についての職員間の意識の向上を図っている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待関連の外部研修に参加し、事業所内の勉強会等で理解を深め、職員全員で虐待を行わない、また、見過ごさない援助を行っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎年、数名が研修会に参加し、毎年度初めに、事業所の勉強会でも再確認を行っている。入居時や家族から相談を受けた時には説明を行っている。	権利擁護に関する理解と活用について、外部研修に参加している。また、全職員の理解が深まるように事業所内で伝達研修を開催している。さらに、伝達研修に勤務上参加できなかった職員には資料を渡し、確認印をとっている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は理解、納得を得るために十分に説明を行い、署名捺印をいただいている。契約内容の改定時には、事前に変更点をお知らせし、同意書に署名捺印をいただいている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	質問や要望を常に話していただく雰囲気作りを行い、利用者や家族へ制度の説明を行っている。	利用者や家族には積極的に声かけを行う等、利用者や利用者家族が意見を言いやすい雰囲気づくりに努めている。花見の希望やケアに対する意見等を聴いて、管理者や職員が運営に反映している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は毎日職員とともに、昼食後10分間程度、カンファレンスや意見交換を行い、話し合いの場を設けている。勉強会（月1回）でも、代表者や管理者に職員とともに何でも話し合える機会を設けている。	管理者は月1回の勉強会で職員から意見を聞いている。また、毎日昼食後にミーティングを開き、職員と運営について話し合っている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員各人が向上心を持って働けるように、働きやすい職場作りに配慮、対応を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとしして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	基本的な人権を尊重し、差別や偏見をしないよう努力している。職員に関しても、他の職場等で心の病んだ方を受け入れ、精神面のフォローを行い、仕事をすることで生き生きと生きていく。	職員の構成年齢は25歳から70歳である。定年は設定していない。性別や年齢等を理由に採用対象から排除することはない。ケアマネージャーや介護福祉士の資格の取得を支援している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	日々の援助の中で、人権教育、啓発活動に努めている。 上から目線で声をかけたり、援助したりしないなど、代表者や管理者、職員ともに意識して援助している。	人権教育に関する外部研修に参加している。全職員が研修を受けられるように配慮し、伝達研修を開催する等職員の人権啓発に努めている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各々の力量に合った外部研修の機会があれば、できるだけ参加するよう勧め、その内容を勉強会等でみんなで再確認している。 また、日常のADL動作援助のすべてにおいて、働きながらトレーニングし、苦手な所は職員間でフォローし合っている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡協議会に参加し、情報交換を行ったり、交流を図ったりしている。 また、ケア事業者会議にも参加し、勉強会や事例発表会等に参加することで、各事業所の取り組み等を参考にしている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ゆっくりとした時間を持ち、十分話し合っている。 また、見学や体験利用を行い、事業所の雰囲気等を確認し、理解していただけるよう努力している。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と十分話し合える機会を設け、要望等を聞き出すようにしている。 また、見学や体験利用を行い、事業所の雰囲気等を確認し、理解していただけるよう努力している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	十分に話を聞き、本人の個性を見極め、まず、事業所や職員に慣れ、1日が不安なく過ごせるよう援助を始める。 利用者や家族の希望を聞き、安心して過ごしてもらえるよう対応に努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	孤独にならないよう一緒に過ごし、喜怒哀楽を共にする援助を行うことを心がけている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	これまでの両者の関係を踏まえ、今後もより良い関係が築けるように面会時には、一緒にお茶を飲みながら話している。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が友人、知人、生活していた場所を覚えていない方がほとんどで、会いに行くことはほとんど無いが、面会はいつでも可能で、知人、友人が訪ねて来やすい様に配慮している。	地域の情報が入りやすいようにデイサービスの利用者との交流する等配慮している。 また、近隣の友人や家族が訪問し易いように夜8時頃まで事業所への出入りを可能にしている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、食事やレクリエーション時には、気の合う方を隣にするなど配慮し、穏やかに会話が弾むようにしている。 職員も利用者が孤立しないよう、また、お互いに支え合えるように声掛けを行っている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ、フォローを行っている。 退所、または、入院された方には、見舞いに行ったり、病院から他の施設へ入居される場合等は、色々な相談や情報提供を行う等の支援をしている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	思いや意向の把握に努めている。 お菓子や甘いものが好きな方は、家族からの差し入れを自室内でいつでも食べられるようにしたり、果物が好きな方には、毎日（りんご1/4切れなど）自室にもって行ったりしている。	利用者の家族3名が週3日ボランティアとして活動している。利用者やボランティアである家族と一緒に食事をとったり、漬物を漬けたりしながら、管理者・職員は利用者や家族からも思いや意向を把握するよう努めている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、本人や家族、ケアマネージャー等から話を聞いたり、情報を提供していただいたりしている。生活環境が変わることで、不安感をいだかないよう気を付けて援助している。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のできる力、わかる力を発見できるように物事を一緒に行い、共有し合えるよう努力している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回の勉強会で、家族の意向も含めた利用者一人ひとりの介護計画の方向性を職員全員で確認している。また、職員に担当を決め、担当者が利用者の状態等に沿った介護計画を立案し、計画作成担当者および管理者を含む全職員で話し合いを行い、介護計画を作成している。モニタリングも同様に行っている。	利用者の毎日のプラン実施表・日常生活動作表等を用い、家族の希望などを基に会議を開き、一人ひとりの状態やニーズに合わせた具体的な介護計画を作成している。介護計画については、家族にも説明をし、署名捺印をもらっている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態変化に気を付け、気づいたことを日報、バイタルチェック表、申し送りノート等に記録している。情報を共有し、1日の中での計画変更を行っている。また、食後のカンファレンスにおいて、介護計画の見直しが必要と思われる場合は、計画作成担当者及び管理者に連絡し、見直し等を検討している。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入院時に、家族があまり関われない場合は、頻りに面会に行ったり、食事介助したりしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	防災無線により、何かあった時には、地域の方が集まり、協力してくれる。また、近所に公園（菖蒲、桜、チューリップ）があり、散歩やドライブを楽しんでいる。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近所の医院にかかりつけ医になっていただいております。すぐに相談できる。歯科も協力医の他、訪問治療してくれるところもある。精神科も協力が得られ、救急病院も近所にある。	入居後においては、利用者が希望する医師をかかりつけ医としており、現在は、利用者の全員が24時間対応で往診してくれる近隣の医院をかかりつけ医にしている。管理者と家族が通院には付き添い、受診の支援をしており、家族との情報の共有もできている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員の中に看護師が4名おり、異常の発見が早期にできる。異常があった場合は、管理者（看護師）へすぐに連絡し、医療支援へつなげている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	管理者が看護師で、馴染みの医師や看護師も多く、また、病気に対する知識も有り、病院関係者と情報交換、相談ができている。結果として、早期退院につながっている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の意向を確認し、かかりつけ医やケア関係者と連携をとりながら支援を行っている。看取りに関するアンケートを取り、終末期を迎えた場合の事業所の関わり方を家族とともに考えている。	事業所は看取りに関する指針を明文化し、入所時に利用者や家族に説明をし、要望を聞いている。家族の意向を尊重しかかりつけ医やケア関係者と連携を取りながら支援している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置や蘇生法など初期対応等について、勉強会を開催したり、研修に参加したり、消防署指導の下実習を行う等6ヶ月ごとに再確認している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火訓練を年3回実施。避難誘導の経路、順序を確認している。近隣の方や職員、入居者の家族など連絡網もできている。	事業所はマニュアルを作成している。消防署の指導で年1回、事業所独自で年2回訓練を行って避難経路や消火器の使い方等を確認している。また、訓練の時には運営推進会議の委員にも参加してもらっており、非常用備品も準備できている。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄を見られることが恥ずかしい人には誘導後、外へ出たり、入浴を同姓の職員にしたりしている。日頃より、職員で話し合い、支援にいかしている。	職員はプライバシーに関する研修を行い、利用者に対する言葉遣いや支援について学習している。本人の気持ちを考えたさりげないケアを心がけるなど意識の向上に努めている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定を促す声かけを行い、支援している。 「入浴したい」、「したくない」、「食べたくない」等できる限り本人の意思を尊重している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	10時や15時のおやつや食事など、本人が、「今いらない」、「食べたくない」等訴えた場合は、時間を遅らせたり、場合によっては中止する。(食事については、体調不良時や病気以外は、中止したことはない。)		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみには気をつけているが、自分の意思で洋服を選べる方が少なくなった。自分でできない方は、朝一番の起床時、整容援助している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	インスタントを使わず、だしも昆布、いりこ、かつお節等を用い、昔の味を再現している。洋風のメニューを少なくしている。一人ひとりの好みを考慮して、準備をしているが、利用者と一緒に料理作りは難しくなってきた。	利用者と職員と一緒に同じテーブルで同じ内容の食事をしている。 野菜等の食材は、家族や近所の方が持って来てくれたり、ボランティアの方や職員が事業所の畑で栽培した物を用い、利用者が昔から家で食していた料理を心がけるなど利用者の好みに合わせて料理をしている。利用者によってはミキサー食やとろみ食なども工夫している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による献立のチェックを行っている。また、利用者の状態を考慮し、ミキサー食、とろみ食等完食できるよう工夫している。水分に関しては、一日の摂取量がわかるよう日報に記入欄を設けている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの能力に応じ、準備やケア援助をしている。歯ブラシで歯磨きをできない方には、口腔スポンジを使用する等援助方法を検討し、支援している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレで排泄を行う方が、腹圧がかかり、排尿や排便ができる為、立位が危険なくできる方は、ポータブルトイレまたは、トイレ介助を行っている。排泄チェック表を利用し、一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導、介助に努めている。	排便表・排尿表を用い、一人ひとりの排泄習慣を把握し、トイレ誘導をしている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で排便管理を行い、食物繊維の摂取、水分量、運動等も個別に観察を行い、便秘の予防に努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	自力で入浴できる人がいないため、安全な時間帯を検討し、ゆとりを持って行っている。入浴の声かけを行い、拒否する方は、入浴を中止したり、時間をずらし、再度声かけしたりしている。	入浴日は決めておらず、希望すれば毎日でも入浴することができる。入浴時間は午前10時から午後3時30分の間である。入浴を拒否される利用者には、無理をせず他の職員が声かけをしている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自力で離床できない方は、朝食、10時、昼食、15時、夕食時に離床援助を行い、ベッド上で1日を過ごすことがないように支援を行っている。また、個々の状態に応じ、入眠援助を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は理解している人が行い、支援は名前を書いた服薬袋を他の人と確認しながら行い、担当が替わっても間違いなく服薬できるようにしている。一人ひとりの病名及び、薬の一覧表を作成し、いつでも確認できるようにしている。症状の変化があるときは、すぐにかかりつけ医に相談している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	寂しい思いをせず、過ごせるよう傍にいて話を聞いたり、体を動かしたり、気分転換が図れるよう支援を行っているが、役割を活かした支援は、行えていない方が多い。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い日は戸外へ出かけるようにしているが、長時間外出できない方が多くなっている。病院に行った帰りに、家族の方と食事や墓参り等に出かけたりしている。遠出をする場合には、家族やボランティアの方に手伝っていただいている。	利用者の状態や希望に応じて、散歩やドライブ等外出支援をしている。長時間の外出ができない方が多くなっているため、病院の帰りに家族の方と食事や墓参りをしている利用者もいる。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自力で使える方は2人いらっしゃるが、2人とも歩行が困難で、買い物にいけない為、必要な物を聞き、職員が購入するようにしている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	目が悪い方は、電話番号を押す等の支援を行っている。手紙やはがきは、購入援助や、投函の手伝いをしたりしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や食堂のテーブルに花を飾ったり、廊下や階段の壁に季節を感じる飾り物を貼り、お茶の時間等の話題にしたりしている。トイレには鍵がかかるようにし、介助が必要な方への援助は、カーテンなどプライバシーには気をつけている。窓にはブラインドを付け、遮光したり、朝日が入るときは開け、一日の時間の流れがわかるようにしている。	居間は、自宅で過ごしているような環境づくりに配慮している。食堂のテーブルには季節の花が飾られ、ソファを置いている所には季節を感じさせる花を職員が飾っている。また、季節に応じて、鯉のぼり等を飾っている。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーに座り、テレビを見たり、話をしたりして思い思いに過ごしている。独りになりたいときは、自室に戻ったり、食堂に来て、新聞を読んだりしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真（人、動物、景色）やカレンダーを貼ったり、馴染みのタンスなどを置いている。物を置くと壊したりしてしまう方は、最低限の物を置くようにしている。本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。	居室は、それぞれ利用者が家で使用していたソファー・タンス・鏡台・ベッド・文机・電気スタンド・縫いぐるみ・家族の写真などが持ち込まれ、本人が過ごし易いよう工夫されている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行器を使ったり、手すりを持って移動したりして自立した生活を送れるようにしている。状態によっては、車椅子を利用したり、手引き援助したり、安全に配慮している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	-	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	-	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	-	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	-	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	-	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
			○	④ほとんどいない
63	-	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	-	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	-	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2/3くらいと
				③家族の1/3くらいと
				④ほとんどできていない
66	-	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
			○	③たまにある
				④ほとんどない
67	-	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	-	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2/3くらいが
				③職員の1/3くらいが
				④ほとんどいない
69	-	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
70	-	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2/3くらいが
				③家族等の1/3くらいが
				④ほとんどいない